

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和7年度
現状と課題	農地や農業用施設は、農業生産に資する機能やこれに併せて発揮される国土保全、地域の生活の場として、また自然・文化資源としての役割を果たしており、人々の生活に密着した地域の財産である。これまで、農地や農業用施設は農家を中心とする集落共同活動等により維持管理が行われ、良好に保全されてきたが、県内の農業・農村の現場では、少子高齢化、人口減少および過疎化等による担い手不足がますます深刻化し、特に中山間地域では、農地の荒廃が深刻化するなど、営農環境だけでなく多面的機能の発揮にも重大な支障を来している。 こうした中本県では、当事業を活用し、水土里資源の歴史や重要性、多面的機能を学ぶ取り組みや、体験型学習の実施など「ぎふ水土里のプロジェクト」として、各種取り組みを体系化し、テーマを定め統一的な展開を図っているほか、平成29年からは都市住民等による農村地域ボランティア組織「ぎふの田舎応援隊」を運営し、農村維持活動や地域住民活動の活性化を図ってきた。 今後は、農地や農業用施設が有する多面的機能や役割を広く県民に啓発を図り、地域住民だけでなく都市住民等と協働で地域住民活動を推進していく必要がある。
事業実施の基本方針	中山間地域を中心に、農地や農業用施設の有する多面的機能の良好な発揮と土地改良施設の利活用に係る地域住民活動の活性化を図るため、活動を促進する人材の育成、地域住民や次世代を担う子ども達を対象とした体験型学習、農地や農業用施設の多面的機能や地域住民活動に関する普及・啓発を行うとともに、都市住民等による農村維持活動等への参加を促進する取り組みを実施する。その際「ぎふ農業・農村基本計画」「岐阜県棚田地域振興計画」の目標達成に向け、各種施策に取り組むこととする。
計画後の目指す姿	農地や農業用施設の保全の必要性について広く県民に理解され農村地域の関係人口が増加、農業者や地域住民と一体となった保全活動が活発に行われており、農地や農業用施設の多面的機能が良好に発揮され、「ぎふ農業・農村基本計画」の基本理念である『「清流の国ぎふ」の未来を支える農業・農村づくり～安全・安心で魅力あふれる「食」と「ふるさと」を目指して～』（4）「地域資源を活かした農村づくり」が実現されている。

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業(量)内容					総事業費
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
多面的機能の発揮に資する取組	農業、農村の持つ多面的機能の大切さや農業用施設の役割、歴史を伝えることを通じて、農村資源の適正な保全管理への理解を深めるため、授業での実施を希望する学校等に「ぎふ田んぼの学校」活動を実施するほか「ぎふ水土里の展示会」「ふるさと水と土指導員」活動を実施することで、多面的機能の啓発や理解の醸成につなげる。	①	ふる水第3-2-(3)	子ども達や地域住民等を対象に、農業体験や生き物調査、環境学習等を実施する「ぎふ田んぼの学校活動事業」、多面的機能を知ってもらうため、パネル展示などのPR活動を実施する「ぎふ水土里の展示会」、地域住民活動を指導・推進するリーダー活動「ふるさと水と土指導員」など5ヶ年で350回実施、活動相互の関わりなどを調査し、その後の進展を確認しつつ実施していく。					
中山間地域地域の維持・活性化に向けた取組	農地・農業用施設等の維持管理が困難となっている地域と中山間地域振興に興味のある企業や都市住民等のボランティア希望者と連携した活動への支援を行うことで、中山間地域の維持保全や地域の活性化につなげる。	①・②	ふる水第3-2-(3) 棚田第3-2-(1)	田舎体験を望む都市住民等による「ぎふの田舎応援隊」の隊員数を計画終期までに1500人とするを旨とするとともに、応援隊派遣に際し応援を望む地域とのマッチングを業務委託により実施するなど、外部人材等が農村維持活動などに参加する取組みを強化し、中山間地域の維持保全とともに地域活性化を推進する。					
棚田の保全及び地域の振興	棚田地域振興法に基づく指定棚田地域の活動計画認定を支援することで、棚田の保全及び棚田地域の振興につなげる。	③	棚田第3-2-(1) 第3-2-(2) 第3-2-(3)	地域活性化の核となる棚田において5ヶ年で50箇所以上が保全を図る体制整備を図ることを目指し、地域協議会の設立とともに、地域振興活動を行おうとする棚田地域の計画策定を支援し、棚田の保全及び棚田地域の振興につなげる。					
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
中山間ふるさと・水と土保全対策事業（ふる水と土基金）			計画事業費 (実績額)	18,300 (10,396) (10,393)	18,100(12,319) (12,319)	17,800			
中山間ふるさと・水と土保全推進事業（棚田基金）			計画事業費 (実績額)	16,670 (7,335) (7,333)	16,500(10,017) (10,017)	16,300			

### 3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値	目標値	年度ごとの実績					達成度	
				令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度		
① 農地及び土地改良施設の維持・保全・管理活動を通じた多面的機能の発揮	多面的機能の啓発・理解醸成		活動実施数 (累計) 350回	56	124				35.4%	
② 中山間地域の地域住民活動による地域の維持・活性化の実現	中山間地域の維持保全や地域活性化		ぎふの田舎応援隊登録数 1500人	994	1,177				78.5%	
③ 棚田の保全及び地域の振興	活動計画認定棚田数		活動計画認定の棚田数 50箇所	27	29				58.0%	

### 4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
① 多面的機能の発揮	①Withコロナ社会に対応した取組みを推進する必要がある（R3） ②指導員活動の促進を図る必要がある（R4）	①多面的機能啓発動画等の制作に取り組む（R3） ②引き続き、新規指導員の委嘱のほか、活動助成や研修会への派遣などにより、指導員活動の促進を図る（R4）	
② 中山間地域地域の維持・活性化	①応援隊の更なる活用に向けて、応援隊活動の受入地域の拡大を図る（R3） ②引き続き登録者の拡大を図るとともに、活動への参加を促進する必要がある（R4）	①応援隊の受け入れ地域の拡大を図るため、市町村や地域等を対象とした応援隊活動の説明会を開催する（R3） ②応援隊活動の参加動機や感想を取りまとめた冊子などを活用し、より具体的な情報を発信することで、活動への参加の促進を図る（R4）	
③ 棚田の保全及び地域の振興	①新たな地域の掘り起こしを図る必要がある（R3） ②活動計画の認定を受けるメリット（中山間地域等直接支払制度の加算措置など）を丁寧に説明する必要がある（R4）	①保全活動組織のある棚田地域で計画未策定の地域を中心に働きかけを行う（R3） ②市町村担当者会議などで説明するとともに、前向きな市町村に対しては、他事例の紹介や申請事務に対する助言など、きめ細かな支援を実施する（R4）	